

報告

第59回粘土科学討論会（山口大会）報告

川俣 純・沢井長雄・谷 誠治・鈴木康孝・富永 亮

山口大学理学部

〒753-8512 山口市吉田1677-1

第59回粘土科学討論会（山口大会）は、平成27年9月2日（水）～5日（土）、山陽路随一の温泉と言われる湯田温泉に近い山口大学吉田キャンパス（山口市）で開催されました。本年も企業向けセミナーを開催したため、4日間の日程となりました。講演件数は、企業向けセミナーが5件、討論会での口頭発表が55件（内訳：シンポジウム6件、提案型セッション9件、一般講演40件）、ポスター発表が40件の合計100件でした。討論会の参加登録者数は、招待4名、正会員106名、学生会員21名、非会員16名の計147名に加え、企業向けセミナーのみの登録が3名あり、合計150名でした。不慣れなスタッフも多く、参加者の皆様にはいろいろとご不便・ご迷惑をおかけしたかとは思いますが、皆様の多大なるご協力により大過なく討論会を終えることが出来ましたこと、実行委員一同心よりお礼申し上げます。

初日の9月2日は、14時より「粘土に関する基礎知識講座」をテーマに、企業向けセミナーが行われました。

企業向けセミナーの講演者と講演タイトルは以下のとおりです。「ベントナイトのメチレンブルー吸着量試験方法」：三好陽子会員（産総研）、「イオン吸着のモデリング」：福士圭介会員（金沢大）、「モンモリロナイト／水懸濁液の粘度」：鈴木啓三会員（北大）、「粘土画分の採取と粘土鉱物の同定方法」：八田珠郎会員（国際農研）、「土壌分野でのCEC・土壌pH」：和田信一郎会員（九大）。今回の企業向けセミナーは、粘土科学を学びはじめた学生にも有益な、基礎的なトピックスが取り上げられたこともあり、第7回若手研究者研究発表会（通称：若手の会）の一部としても位置づけられました。70名程の参加があり、盛況のうちにプログラムを終えることができました。

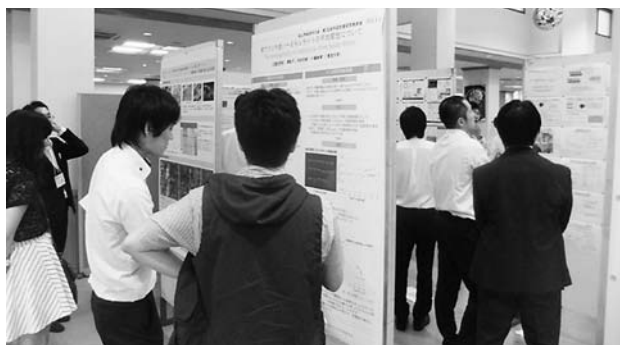
企業向けセミナー終了後は、平成27年度常務委員会と、若手の会のポスターセッションが開催されました。若手研究者研究発表会では、13件のポスター発表があり、活発な討論がなされました。



メイン会場の理学部玄関



企業向けセミナー



若手の会



若手の会

9月3日は、9時15分から口頭発表が行われました。山口大学吉田キャンパスは、湯田温泉のホテル街から3kmほど距離があるため、宿泊先からのアクセスを心配しておりましたが、中国JRバス山口支店様のご協力により定期路線バスに加え、粘土学会専用の臨時便を運行していただき、混乱無く会場にお集まりいただく事ができたと思っております。また、およそ半分の方が前日



A会場

に受付を済まされていたこともあり、発表が始まる時間にはほとんどの方に会場に入らせていただくことができました。A会場（担当：沢井長雄副実行委員長）では、地球科学・資源・土壌・肥料・建設・農業土木分野の発表が、B会場（担当：鈴木康孝実行委員）では、無機材料・化学・物理分野の発表が行われました。昼休みには、平成27年度評議員会が開かれました。



B会場

午後は13時から、山口大学大学院理工学研究科の金折裕司教授による特別講演、「活断層系と地震帯：露頭と歴史から学ぶ」が行われました。金折教授は地質学がご専門で、西南日本のテクトニクスと内陸大地震の危険度評価、大規模構造物の基盤岩盤のキャラクタリゼーション、活断層系の活動性と基盤岩盤の地震に対する安定性

などのご研究で、数多くの成果をあげられています。今回は先生のご研究の中から「大原湖－弥畝山西断層系」に沿った活断層露頭、湯田温泉と活断層および南海地震との関連性、長門峡の断層プロセスゾーン露頭、浜田地震を記録する畳が浦とダメージゾーン、この分野の研究史、および地震や津波についてご講演をいただきました。



特別講演（金折先生）



特別講演（金折先生）

14時からは、「粘土鉱物の摩擦滑り挙動～地滑り、断層滑りと災害発生機構」というテーマにて日比野俊行会員・田村堅志会員が企画されたシンポジウムが開催されました。ご講演の題目とご講演者は、「海溝型地震・津波発生における粘土鉱物の役割」：亀田純会員（北大）、「粘土鉱物の摩擦特性と沈み込みプレート境界地震の関連性」：片山郁夫氏（広島大）、「断層に存在する雲母・粘土鉱物の最大摩擦係数：粒子形状と水の影響」：佐久間博会員（物材機構）、「粘土鉱物の生成・運搬メカニズムと

土砂災害」：地下まゆみ会員（大阪大谷大）、「マイクロ領域における粘土鉱物の摩擦特性と地すべり滑動との関係」：大河原正文会員（岩手大）でした。シンポジウムでご講演いただいた5名の方には、山口大学農学部附属農場で栽培・収穫した山口県で開発された酒米「西都の雫」を原料に、萩市にある岩崎酒造（株）で醸造された純米大吟醸、「長州学舎」が記念品として贈られました。



シンポジウム



シンポジウム

シンポジウムの終了後、湯田温泉街にあるユウベルホテル松政に移動し、懇親会が催されました。粘土科学討論会の良き伝統で、討論会参加者の6割以上にもなる94名(内、学生16名)の方々に参加いただくことができました。沢井長雄副実行委員長の司会進行により、日本粘土学会の黒田一幸会長(早稲田大)のご挨拶、山口大学の三池秀俊理事・副学長による歓迎のご挨拶の後、山口大学の田中和広理事・副学長による乾杯のご発声により宴が始められました。最近全国的に注目されている山口の地酒三種類を用意し、多くの方にお楽しみいただきました。宴の中盤で、特別講演者の金折裕司教授からお言

葉をいただいた後、翌日の提案型セッションについて万福裕造会員(国際農林)、中戸晃之会員(九工大)から紹介がありました。その後余興として、全日本吹奏楽コンクールにおいて度々入賞している山口大学吹奏楽部の有志により金管五重奏が披露されました。最後に、和田信一郎会員から、次回の粘土科学討論会が九州大学で開催されるとの案内があり、山田裕久前会長(物材機構)にご挨拶いただき閉会となりました。ユウベルホテル松政には、宿泊者と宴会の参加者以外は入浴できない掛け流しの内湯があります。懇親会の閉会后も、有志による裸の付き合いが賑やかに繰り広げられていました。



懇親会(会場)



懇親会(黒田先生挨拶)

9月4日は、前日と同様2会場にて9時から一般講演の口頭発表が行われました。11時からはA会場にて総会が開催されました。総会では、久保博会員((株)立花マテリアル)が議長を務め、黒田一幸会長の挨拶、報告事項、審議事項、学会賞等の表彰が行われました。特に今回の総会では、日本粘土学会の法人化という大きな議題が審議され、承認に至りました。学会賞等の受賞者は以下の通りです。学会賞：佐藤努会員、功績賞：昭和KDE株式会社、クニミネ工業株式会社、関東ペントナイト鉱業株式会社、株式会社勝光山鉱業所、斐川礦業株式会社、奨励賞：井出裕介会員、佐久間博会員、技術賞：大和田朗会員、佐藤卓見会員、平林恵理会員、論文賞



総会(黒田先生挨拶)

(粘土科学)：富永亮会員・杉原寛之氏・持田修平氏・谷誠治会員・鈴木康孝会員・川俣純会員，論文賞 (Clay Science)：M. Nanzyo, H. Kanno, and A. Takeda 会員，D. Matsumura, T. Kobayashi, Y. Miyazaki, Y. Okajima, Y. Nishihata, and T. Yaita 会員，学術振興基金賞：菊池亮佑会員，櫻井敏樹会員。



学会賞：佐藤努会員



功績賞：昭和 KDE 株式会社



功績賞：クニミネ工業株式会社



功績賞：関東ベントナイト鉱業株式会社



功績賞：株式会社勝光山鉱業所



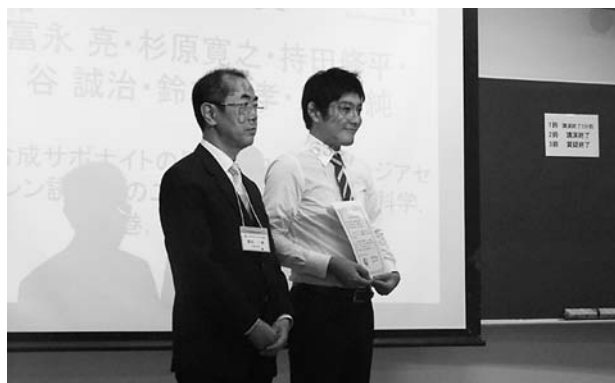
奨励賞：井出裕介会員



奨励賞：佐久間博会員



技術賞：大和田朗氏・佐藤卓見氏・平林恵理会員



論文賞 (粘土科学)：富永亮会員・杉原寛之氏・持田修平氏・谷誠治会員・鈴木康孝会員・川俣純会員



論文賞 (Clay Science)：M. Nanzyo, H. Kanno and A. Takeda 会員



論文賞 (Clay Science)：D. Matsumura, T. Kobayashi, Y. Miyazaki, Y. Okajima, Y. Nishihata and T. Yaita 会員



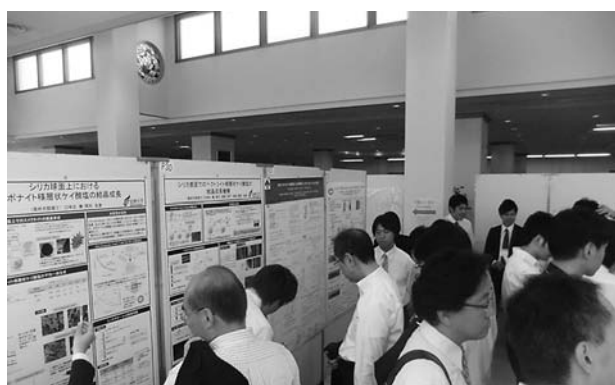
学術振興基金賞：菊池亮佑会員



学術振興基金賞：櫻井敏樹会員

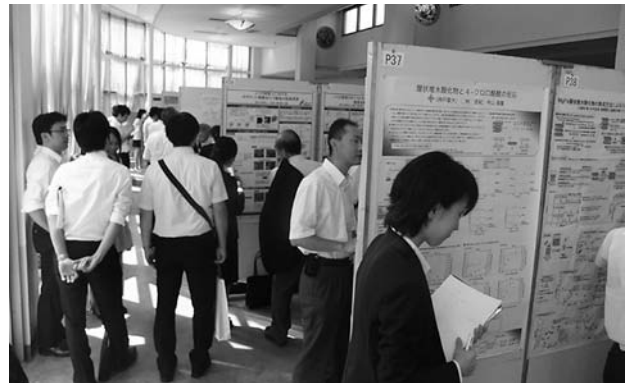
午後は13時からC会場(担当：谷誠治実行委員)にて、40件のポスター発表が行われました。多数の方々にご参加いただき、活発な討論が行われました。14時30分からA、B両会場にて一般講演の口頭発表が再開され、後半は提案型セッションが企画されました。提案型セッションの題目は、A会場：「農地土壌中の粘土画分における放射性セシウムの吸着・固定化～可給化メカニズムの解明に向けた横断的検討～」(提案者：万福裕造会員)、B会場：「粘土コロイドの電場応答とその応用」(提案者：中戸晃之会員)でした。

9月5日は、沢井長雄副実行委員長を案内役に、22名の参加者で山口県美祢市、防府市、山口市を見学しまし



ポスター会場1

た。湯田温泉を9時に出発し、9時45分頃の一つ目の見学場所、美祢市の秋吉台に到着しました。しばしカルスト地形を探索した後、黒谷口から秋芳洞に入洞し、洞窟生成物を観察しました。山口市に戻り、常栄寺・雪舟庭近くの食堂で昼食をとった後、二つ目の見学場所、防府市上勝坂で平成21年7月に発生した大規模土石流の跡とその対策工事の様子を見学しました。さらに、山口市秋穂に移動し、有限会社ブル陶の萩焼粘土の採掘場と工場を見学し、スケジュールを終えました。参加者には、沢井副実行委員長手作りの「ぐい呑み」がお土産として配られました。最後は17時に新山口駅新幹線口バスターミナル、17時30分に湯田温泉でそれぞれ解散となりました。



ポスター会場2



湯田温泉出発



見学会（秋吉台での集合写真）



見学会（萩焼粘土の採掘場）



見学会（大規模土石流跡の見学）

討論会の開催にあたりましては、日本粘土学会の会長・副会長・常務委員長、そして常務委員会委員・評議員会委員の方々、さらに討論会の準備および開催にあたり事務局の土信田裕子氏には大変お世話になり、ありがとうございました。また今回の討論会にて、座長をお引き受けいただきました会員の方々、会期中無報酬で受付・タイムキーパー等の裏方をしてくれた山口大学理学部の関連分野の学生諸氏にも心より御礼申し上げます。

そしてこの度の山口での討論会開催にあたり、多くの関係企業の皆様方からご援助を頂きましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、遠路はるばる山口までお越しいただいたすべての参加各位に感謝いたしております。これに懲りずにまた山口にお越しいただけると幸いです。どうもありがとうございました。